



【支援企業紹介】

酔仙酒造株式会社 (P2)

変わらぬ名酒を醸し、 地域復興のいしずえに



平成26年度
ものづくりアカデミーのご案内 (P4)

第19回いわて希望ファンド
第16回いわて農商工連携ファンド
公募予定 (P5)

加工部門別商談会のご報告 (P6)
新素材・加工産業化研究会のご報告 (P6)

北東北3県域アパレル企業
ビジネスマッチングフォーラムを開催しました (P7)

被災事業者等販路開拓支援展示・商談会
「東北三県いただきマルシェ」出展報告 (P7)

第41回岩手県の物産と観光展(名古屋丸栄展) (P8)
開催しました

第43回岩手県の物産と観光展(日本橋高島屋展) (P8)
開催案内



- ①タンクに酒母を入れ、米と水を加えながら24~25日かけて酒を仕上げていく。
- ②仕込み蔵の中では「雪っこ」「特別純米」などの代表銘柄が出荷の時を待つ。
- ③今は寒仕込みの真っ最中。早朝から蒸米が始まり、蔵人は忙しい日々を送る。
- ④仕込み後から出荷までタンク内の品質データをチェック。刻々と変化する酒の善し悪しを判断する材料の蓄積だ。
- ⑤ヒノキの香りに満たされた麹室と、酒造りの要・酒母が保管された酒母室。
- ⑥1階の瓶詰ラインは純米酒の充填を控え、器具を全部解体して徹底洗浄中。
- ⑦40年以上のロングセラー「雪っこ」は出荷最盛期。200ml缶で日産1万本。
- ⑧酔仙の酒を紹介するコーナー。「地域の酒販店で買って欲しいから」本会社に売店はない。
- ⑨名古屋市の被災地支援事業に賛同、名古屋で看護を学ぶ学生から届いたお礼状。



変わらぬ名酒を醸し、地域復興のいしずえに

三陸を代表する酒蔵として「酔仙」「雪っこ」など数々の名酒を造ってきた酔仙酒造株式会社。東日本大震災津波による本社工場の全流失から半年余りで酒造りを再開したニュースは、当時の岩手にどれほどの勇気を与えてくれただろう。「次は、気仙地方全体の復興だ」。新生・大船渡蔵で2度目の酒造りに挑む金野連社長は、力強く言い切った。

自社よりも地域への願いを込め 瓦礫の中で発した“復興宣言”

大船渡市の山あい立つ、堂々たる大屋根の蔵。せり出した玄関庇に掲げられた杉玉はすでに濃茶色に変わり、この蔵での酒造りが佳境であることを教えてくれる。

「10月1日は日本酒の日。この日に合わせて仕込む看板商品『雪っこ』の出荷に合わせて新しい杉玉を吊るすのが、以前からうちの慣習なんです。年も明け寒さ厳しい現在は、大吟醸などの寒造りの真っ最中。杉玉もだいぶ、いい色になりました」。

陸前高田市の本社工場の壊滅から丸3年。あの東日本大震災津波での悲劇から、酔仙酒造株式会社は奇跡ともいえるスピー

ドで再興した。「やれることは確実にやってきた。これからは、酔仙が出来る方法で恩返しをしていかなければならない」。強い意志と決意を込め、金野連社長は続ける。

震災後、ニュース等で流れた同社の被災映像を覚えている人は少なくないはずだ。そして根こそぎ壊された跡地で、金野靖彦会長の発した「必ず復興する」の一言も。

「正直、私は倒産を覚悟した。でも会長は『酔仙が復興するといえば他の誰かが手を上げるだろう』と考えた。それだけ、高田は絶望に沈んでいたんです」。「宣言」の裏にあった切実な願いを、金野社長は会長の言葉に感じ取っていた。そして、その言葉に励まされ共感した人々が集まり、酔仙酒造の再興も始まったのである。

支援の輪の広がり新蔵が完成 地域の復興は「皆でやっべし」

震災わずか半年後の8月には、同業者・岩手銘醸株式会社から一関市千厩町の蔵を借り受けて酒造りを再開、10月17日に待望の新酒「雪っこ」の初出荷にこぎつけた。

それと同時に金野社長らは工場再建のための事業計画を作成し、候補地探しに奔走。気仙地方を回り、陸前高田の工場と同じ水質を持つ地下水を氷上山北麓で発見した。そして国の復興事業補助金も決まり、翌24年3月には工場建設に着手する。「異例の早さは地元建設業者が『酔仙ならば』と結集してくれた事と、愛知県のトヨタ紡織株式会社がトヨタ生産方式に基づく工場建設などのノウハウを提供してくれたから。岩手銘醸も含め、関わった方々すべてのお陰です」。8月には「大船渡蔵」が完成し、仕込みがスタート。例年通り10月1日、

復活第2弾の雪っこが世に出た。

現在、2年目の酒造りに入っている大船渡蔵。生産規模は高田の頃と比べおよそ半分の5000石（一升瓶換算で50万本）だが、「生産時期や杜氏の力量で生産量の増産は可能」と金野社長。醸造期間が約7ヶ月と長い生系の酒を量産しつつ吟醸酒に時間をかけられること、さらに杜氏や蔵人が働きやすい機械配置や動線の構築がその根拠だが、それらは全て、陸前高田の蔵で実践してきたこと。失ったものは大きい、「美酒伝承」という創業理念とともに、酔仙酒造の本質はなんら変わっていない。

当センターも長年、設備貸与や物産展事業等で同社を支援してきた。それに感謝しつつ、金野社長は「復活できない地元業者へは事業資金情報などの支援も必要」と話す。同社が地産地消の酒やコラボ商品に取り組むのも、地域全体の復興を願うからだ。

皆でやっべし-新生・酔仙の決意である。

我が社の力こぶはコレ!
いい酒を造る技と心を次代の人に繋げていく
酔仙のベースは「美酒伝承」。地元の水と米で地元の食材に合う酒を、地元の蔵人の技と心で造っていく創業精神を、次の世代へと繋げていくのが使命です。そして気仙地域の復興のいしずえとなるべく、できることには何でも取り組んでいきます。



代表取締役社長 金野連

会社名 酔仙酒造株式会社
本社 岩手県陸前高田市高田町字大石1-1
大船渡蔵 岩手県大船渡市猪川町字久名畑136-1
電話 0192-47-4130
代表者 金野連
創業者 昭和19年(1944)9月
従業員 38名
業種 日本酒の製造、販売
URL http://suisenshuzo.jp/

【支援企業紹介】陸前高田市 酔仙酒造株式会社



平成26年度

いわてものづくりアカデミーのご案内

いわて産業振興センターでは県内中小企業の人材を育成するため、企業の管理者・後継者・製造現場スタッフ等を対象に、意識改革や経営手法に関するセミナーを開催します。ご参加をお待ちしています。

中堅管理者・後継者養成講座

企業が繁栄・存続していくためには、将来にトップを支えることとなる中堅管理者と後継者の養成が不可欠の条件となります。この講座では、管理者・後継者に要求されるテーマを「経営理念・戦略」「計数の理解」「リーダーシップ」の3つに絞って指導します。

- テーマ** 中堅管理者の立場と役割、環境の変化と企業の対応、経営理念と経営戦略、会社で使う計数の基礎、リーダーシップ、部下指導
- 講師** (株)エム・イー・エル 石黒仁司、(株)MELソリューション 安田芳樹
- 日程** 平成26年9月10・11日、10月8・9日、11月12・13日
- 会場** 金ヶ崎町・みどりの郷ほか
- 受講料** 1名につき50,000円

品質管理中級セミナー

品質管理と品質保証は奥の深い世界であり、加工の難易度、材質の問題、精度等刻々変化するものづくり現場に対応して管理手法や検査手法も不断のレベルアップを図る必要があります。本セミナーでは、最新の品質管理の進め方や、大手メーカーに対しても確実な品質保証ができるレベルの管理技法を指導します。

- テーマ** 品質管理の必要性・考え方、TQMの進め方、トラブル解決法・標準化、各種管理・検査手法他
- 講師** 玉川大学経営学部 教授 大藤 正
- 日程** 平成26年8月26・27・28日
- 会場** 北上市・北上オフィスプラザ
- 受講料** 1名につき15,000円

品質管理基礎講座

品質管理の徹底は、不良・クレームの減、ムダ作業の減、コスト減、生産性・信頼性・受注能力向上、体質改善等々、経営全般に著しい効果があり、取引先・社員・経営者の全ての利益に直結します。本講座は、基礎的な品質管理を確実にできる人材の育成を目指します。

- テーマ** 挨拶と管理前のかんり、整理整頓と人間関係、品質管理とは、データの取り方他
- 講師** 日本工場経営者協会 内山昭夫
- 日程** 平成26年5月22・23日
- 会場** 北上市・北上オフィスプラザ
- 受講料** 1名につき10,000円

工程改善基礎講座

近年のものづくりでは、世界経済の影響を受ける中で、より一層ムダ・ムラ・ムリを排除した効率的生産が求められています。本講座では、作業効率向上等に対応した工程改善のポイントについて伝授し、改善取組みへのきっかけづくりを行います。

- テーマ** 参加企業の現状分析と問題点のどらえ方、モデル作業の改善、改善を継続するポイント他
- 講師** (株)アドバンス経営 中田耕治
- 日程** 平成26年6月19・20日
- 会場** 北上市・北上オフィスプラザ
- 受講料** 1名につき10,000円

経営者・管理者のための原価低減セミナー

市場の変化による減産や、お客様(取引先様)からのコスト削減要請といった厳しい状況下において、利益を出すためには、まずは原価を深く理解する必要があります。本セミナーでは、経営者・管理者を対象に、原価に対する理解を深めてもらうとともに、減産下でも利益を出すための原価低減の考え方について講義と演習で学んでいただきます。

- テーマ** 原価の仕組と決算書、ムダと原価の関係、原価管理の必要性、少ないデータで利益を確保する方法、優良企業の経営分析とベンチマーク演習
- 講師** 経営コンサルタント 齋 巖
- 日程** 平成26年12月4・5日
- 会場** 盛岡市・岩手県工業技術センター(予定)
- 受講料** 1名につき10,000円

管理者のための生産管理セミナー

企業が継続して利益を確保していくためには、お客様(取引先様)に満足してもらうことが、重要な条件となります。本セミナーでは、お客様(取引先様)が満足するQCDを維持、提供していくために必要となる生産管理の考え方を講義と演習で学んでいただきます。

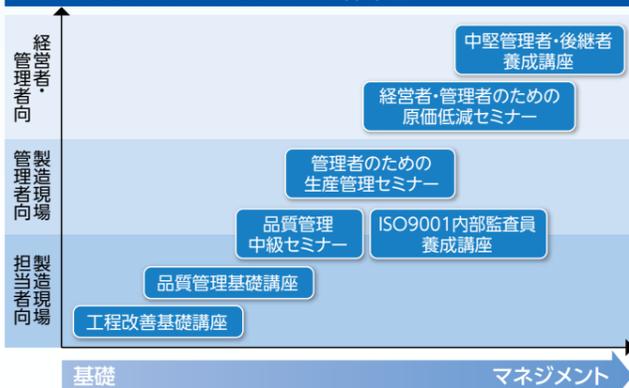
- テーマ** 生産管理とは、生産計画の流れ、生産統制とは、多品種少量生産の生産管理、生産管理とリードタイム、生産方法の違いについて演習による体感
- 講師** 経営コンサルタント 齋 巖
- 日程** 平成26年7月15・16日
- 会場** 盛岡市・岩手県工業技術センター(予定)
- 受講料** 1名につき10,000円

ISO9001内部監査員養成講座

ISO9001の取得・維持は、品質向上や競合他社との差別化はもとより、企業体質強化、企業イメージ向上等、経営戦略上の重要項目となっています。本講座は、監査の実習等を含む実践的なカリキュラムで構成された内部監査員を目指す方には最適のコースです。

- テーマ** システム概要と要求事項、内部監査と内部監査員、監査計画と内部監査の実施、是正処置要求書・監査報告書
- 講師** (株)高野テクノサービス 高野清治
- 日程** 平成26年10月23・24日
- 会場** 八幡平市・ホテル安比グランド
- 受講料** 1名につき12,000円

■いわてものづくりアカデミーの体系図



※宿泊料等はお問い合わせ下さい。 ※当センター賛助会員の方は2割引で受講できます。

申込・問合せ先

産業支援グループ TEL:019-631-3823 FAX:019-631-3830

公募中です

3/3[月]

3/31[月]まで

希望ファンド小規模事業者枠は3/24まで

お知らせ

第19回 いわて希望ファンド助成金

第16回 いわて農商工連携ファンド助成金

いわて希望ファンド 地域活性化支援事業

県内中小企業等の革新的・個性的な取り組みにより、地域経済の活性化を図るため、創業、経営革新、中心市街地活性化に向けた取り組みなどを支援します。

起業・新事業活動支援事業

創業・起業や経営の革新に資する中小企業等の以下の取り組みを支援

市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発または事業化、販路開拓、人材養成等

対象者	●創業する者 ●中小企業者	●特定非営利活動法人(NPO法人) ●農事組合法人等		
	①一般枠 起業または新事業に取り組む事業	②地域資源活用枠 (地域資源を活用する事業)	③経営革新枠 (経営革新計画の承認を受けた事業)	④小規模事業者枠 (従業員5名以下の事業所で起業または新事業に取り組む事業)
助成限度額	300万円	300万円	500万円	150万円
助成率	1/2	2/3	3/4	3/4
助成期間	1年間(※継続3年以内(毎年審査))			

中心市街地活性化支援事業

中心市街地や商店街の活性化に向けての革新的な以下の取り組みを支援

市場調査・動向調査、新商品・新役務の開発または企業化、販売促進・販売力強化、業種構成再編・遊休資産活用等

対象者	●中心市街地の活性化に関する法律第15条第1項各号に掲げる者 ●小売・サービス業を営む県内に住所のある中小企業者等 ●商工会、商工会議所、商店街振興組合、事業協同組合 ●知事が適当と認める特定非営利活動法人(NPO法人)		
助成率	9/10 (店舗賃借料については、「店舗賃借料/月×月数(助成対象期間×1/3)」の算式によって算出された額の9/10)		
助成限度額	250万円	助成期間	1年間(※継続3年以内(毎年審査))

支援機関による支援事業

中小企業者が実施する起業・経営革新等を支援する事業を行う支援機関の取り組み支援

いわて農商工連携ファンド 地域活性化支援事業

本県の地域経済の重要な担い手である農林水産業と中小企業者との連携(農商工連携)を強化し、相乗効果を発揮していくことで地域経済の活性化を図るため、中小企業者と農林漁業者の連携体が行う創業や新たな事業展開等を支援します。

起業・新事業活動支援事業

中小企業者と農林漁業者が連携をして行う下記の事業を支援

- ①新商品等開発支援事業(新商品・新技術・新役務の開発事業)
- ②販路開拓等支援事業(販路開拓事業)

市場調査・動向調査、新商品・新技術・新役務の開発または事業化、販路開拓、人材養成等

対象者	●県内の中小企業者と農林漁業者の連携体 →農林漁業者とは、農業、林業、漁業を行うもの及びこれらの組織する団体(農協、森林組合、漁協、連合会も可) ●中小企業者以外で、県内のNPO等と農林漁業者の連携体
助成率	4/5
助成限度額	600万円 (農商工連携事業計画の認定を受けている場合は助成限度額1,000万円)
助成期間	1年間(※継続3年以内(毎年審査))

支援機関による支援事業

農商工連携による起業・新事業活動等を支援する事業を行う支援機関の取り組みを支援

●農商工連携の基本的要件

- 1.有機的連携** 中小企業者と農林漁業者が有機的に連携し、それぞれの経営資源を有効に活用すること

◆「有機的連携」とは、通常の事業範囲を超えて両者が連携することを指します。
◆「経営資源を有効に活用」とは、両者の有する設備、技術、個人の有する知識及び技能その他ビジネスノウハウ、知的財産等が、本事業を実施するために具体的に、かつ有効に用いられていることを指します。

- 2.新商品の開発等** 事業により、新商品若しくは新役務の開発、生産または需要の開拓が実現すること

◆「新商品若しくは新役務(サービス)」とは、事業実施主体にとって、これまでに開発、生産したことの無い新たな商品または役務であることが必要です。

●農商工連携の事例～お菓子の開発～

中小企業者(菓子メーカー)
もち米である古代米、低アミロース米の米粉を使用し試作品の製造、サイズ・パッケージ共に平泉に結びつけるデザイン制作。展示会における市場調査、販路拡大活動を行う

連携
それぞれが工夫を凝らした取り組み!



農林漁業者(農業者)
古代米を米粉に加工(品種の選定と製粉条件)。低アミロース米、うるち米といった食感の異なる原材料も検討。事業化された事により古代米に新たな活用・販路が生まれた

平泉の「世界文化遺産」登録を目前に商品開発を構想。「平泉」と「古代米」という共通した歴史イメージをもつ素材を組み合わせて考案された事業化に至った。商品名・パッケージデザイン等も同様のイメージから開発された。

お問い合わせ
お申し込みは

産業支援グループ

(いわて希望ファンド担当/福島 いわて農商工連携ファンド担当/伊藤利光)
TEL019-631-3824 FAX019-631-3830 メール johoh@johoh-iwate.or.jp
※応募を希望される場合は、事前相談が必要になります。

平成25年度 加工部門別商談会の開催報告

平成26年2月24日・25日に東京都港区虎ノ門の「日本消防会館」において「鋳物・機械加工」部門と「プレス・板金・成形」部門による加工部門別商談会を開催しました。参加企業は、「鋳物・機械加工」部門で発注企業16社、受注企業17社、「プレス・板金・成形」部門で発注企業8社、受注企業11社で147件の商談が行われました。



この商談会は、過去に平成9年から平成15年まで7年間当財団が行っていたもので、平成24年までの2年間行われた被災地支援のための大規模商談会（東京都中小企業振興公社主催、中小企業庁主催）が終了したために、県内中小企業の商談機会を増やしたいと考え企画したものです。



今回は、面談時間を1コマ20分とし、小規模でじっくり商談できるよう設定しました。また対象業種は、発注企業からの外注品目が多い「鋳物・機械加工」と「プレス・板金・成形」としました。

商談会では、加工サンプルや会社案内を持参するなど積極的に自社の技術をアピールし、熱心に商談を行っていました。

今後、参加頂いた企業のアンケートをもとに、さらに改善を加えながら次回商談会の参考にしたいと考えております。

北東北3県域アパレル企業 ビジネスマッチングフォーラムを開催しました

2月6日、二戸市「二戸パークホテル」にて、北東北3県のアパレル関連のものづくり企業の交流促進と、首都圏等発注企業との取引の活性化を図る催し「北東北3県域アパレル企業ビジネスマッチングフォーラム」を開催しました（主催：岩手県北広域振興局、(公財)いわて産業振興センター）。

関係者が出席しました。今回は3県企業と発注企業の個別面談を中心に行い、情報交換をはじめ、具体的な案件について、商談されたところもありました。

本フォーラムは、国内の縫製工場が減少している中、「メイド・イン・ジャパン」にこだわった製品づくりを志向する首都圏等の発注企業に対し、質の高いものづくりを提供する北東北3県のアパレル企業をアピールすること、3県企業間の連携・情報交流を目的としたもので、今年で4回目の開催となります。

会場内では3県企業のサンプル等を展示するコーナーも設置し、発注企業へ自社技術をアピールする場として、また3県企業同士でもお互いの技術について情報交換する場として活用されました。

当日は、北東北3県の縫製企業25社（岩手県21、青森県2、秋田県2）と、首都圏等の発注企業15社、ならびに

個別面談の後の懇親会の部においても、面談できなかった企業と名刺交換をしたり、活発に他社との交流が行われていました。

このフォーラムを機会に、北東北3県の縫製企業の活動がより活性化されることを期待しています。



第2回「新素材・加工産業化研究会」開催しました

2月21日(金)に平成25年度第2回「新素材・加工産業化研究会」をホテルメトロポリタンNEWWINGを会場に開催しました。当センターでは、岩手県の企業、研究機関、支援機関等が一体となって、コバルト合金など特殊合金新素材の製造と産業クラスターの形成を進めることを目的とし、昨年10月に「新素材・加工産業化研究会」を設立いたしました。今回はその第2回目として開催したものです。

研究会は3つのテーマで構成し、以下の通りの講演となりました。

- ・「加工に係る専門的・学術的な講演」
講師：株式会社神戸製鋼所 技術開発本部 主任研究員 赤澤浩一様
内容：難削材の高速・高効率加工の取組み
- ・「新素材・加工分野企業による講演」
講師：株式会社豊栄工業 製造部 部長 美和辰旺様
内容：自動車業界から医療分野、食品分野等の新分野への展開とその秘訣
- ・「加工に係る治工具、装置の最新技術動向の紹介」
講師：オーエスジー株式会社 企画部 今泉悦史様
内容：難削材加工の新たな取組み



参加人数は、産学官合わせて58名となり、参加者からは非常に貴重な講演で有益であったとの声が多く寄せられました。

講演後の交流会では個別勉強会や分科会の開催等の要望が出るなど、研究会の発展につながる活発な意見交換がなされ、情報発信・関係者の交流の場となりました。

また、当センターでは、本研究会の参加企業様向けに試作補助、専門家派遣等の支援を行っており、参加企業の新素材・加工産業分野進出と雇用創造への取組み支援を継続して行ってまいります。



被災事業者等販路開拓支援 展示・商談会を東京及び大阪で 開催いたしました



東日本大震災により被災した中小事業者等の皆様の受注回復や取引拡大を支援するため、独立行政法人中小企業基盤整備機構と公益財団法人いわて産業振興センター、岩手県、宮城県、福島県が連携し開催いたしました。スーパーや小売業者のバイヤーが多く参集する日本有数の「食」の展示会「第48回スーパーマーケット・トレードショー（於：東京ビッグサイト）」及び関西地区最大級の食の展示会「第11回シーフードショー大阪/第7回アグリEXPO大阪（於：大阪ATCホール）」に出展しました。来場者は東京会場約8万2千人（3日間開催）、大阪会場約1万5千人（2日間開催）と大いに賑わいを見せました。

統一出展ブースは「東北三県いただきマルシェ」と称し、県内からは東京会場63社、大阪会場36社が出展しました。風評被害等の影響も心配されましたが、沢山の方においていただき活発な商談が行われ、岩手県の豊富な天然資源や商品の品質の高さの発信を行い、取引見込件数600件以上の成果を得ることができました。



第41回 岩手県の物産と観光展(名古屋丸栄展)開催しました

平成26年2月6日(木)~2月11日(火・祝)の6日間、愛知県名古屋市(株)丸栄を会場として、第41回岩手県の物産と観光展(名古屋丸栄展)を開催しました。

東日本大震災から3年近くが過ぎようとしておりますが、現在でも数多くの名古屋市の皆様に復興のお手伝いをいただいております。その名古屋市で開催する今回の物産展では「みちのくの美味に舌鼓、岩手を代表する名産・名品を一堂に」をテーマに、県内58事業者の元気な姿を発信しました。

観光コーナーでは、バスガイドさんと岩手県PRキャラクター「そばっち」が県内の観光地を紹介したほか、「世界遺産平泉 復興応援 祈り鶴プロジェクト」を展開し、沢山の名古屋の皆様に参加していただきました。また、特設の宮古市観光コーナーでは宮古市の観光をPRしました。

会場では、お客様参加プログラムとして「冷麺手作り体験」と「琥珀玉作り体験」を行ったほか、お楽しみ抽選会や三陸鉄道グッズ販売も行いました。

2月8日に記録的な降雪があった為、売上は43,113千円(速報値:前年比91.5%)となりましたが、盛況のうちに終了しました。



第43回 岩手県の物産と観光展 開催案内

日本橋高島屋展

43回目を迎えます今年の岩手県の物産と観光展(日本橋高島屋展)は、連続テレビ小説「あまちゃん」の舞台となった久慈市の郷土料理「まめぶ汁のお振舞い」や、「さんさ踊り披露」等の岩手県の観光PRを屋上で行います。

会場には、個性豊かな食品やぬくもりの伝わる工芸品などを一堂に取り揃えております。さらに今回は、被災した企業が復興への意欲を持って開発した新たな商品を重点的に取り上げ、関東の皆様にご覧いただき、県内事業者の元気な姿を発信して岩手の復興もPRすることとしています。

皆様のご来場をこころよりお待ちしております。

会期 平成26年3月19日(水)~3月24日(月)の6日間

時間 10:00~20:00 (24日最終日は18:00終了)

場所 (株)高島屋東京店 8階催会場
[住所:東京都中央区日本橋2-4-1]

